様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　７ 月　１ 日現在

機関番号：３３５０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ００６６

研究課題名（和文）チベットの埋蔵経典に描かれた建国神話伝説における仏教思想の研究

研究課題名（英文）A study of Buddhist thoughts in nation building mythologies as depicted in Tibetan treasure texts

研究代表者
槇殿　伴子（Makidono, Tomoko）

身延山大学・その他部局等・その他

研究者番号：４０７２０７５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：論文８本、口頭発表６本,書籍１点である。詳細は「『マニ・カンブン』の木版印刷版について」『佛教学』59,「チベット埋蔵経典『マニ・カンブン』における初期仏教についての記述」『パーリ学仏教文化学』32,「ネパールにおけるフィールドワーク」『身延論叢』24,『『マニ・カンブン』における「ヴェッサンタラジャータカ」』（『日蓮学』３）,『マニ・カンブン』における如来蔵思想（印度學佛教學研究69(2)などである。印度学佛教学会、日本宗教学会、国際チベット学会で口頭発表を行った。『チベット建国説話と観自在信仰ー『マニ・カンブン』「偉大なる歴史章」を中心にー』（起心書房）を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は（１）現在伝わる『マニ・カンブン』の木版印刷版のうち6版の比較研究を初めて行ったこと、（２）チベット土着の埋蔵経典に説かれた観自在信仰の教えの諸相の解明を行ったことである。教義面では、説示される浄土教の特徴、六字真言による五無間業の滅、如来蔵思想、自心仏の教えを指摘した。引用された『大乗荘厳宝王経』の役割の解明を行った，自心仏と即身成仏の教えの源流を探ることにより、チベット密教（チェンポ・スム）と日本密教の接点が見出され、前伝期チベット仏教の思想を再構築できるきるのではないかと考える。本研究が新たな学問領域の開拓につながることが期待されることが社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：The outcome of the research is resulted in 8 articles, 6 oral presentations, and a book,such as ‘‘On the Blockprints of the Mani bka’’bum’’(Journal of Buddhist Studies 59), ‘‘Tracing the Early Buddhism in a tibetan Revealed Scripture’’(Journal of Pali and Buddhist Studies 32),‘‘My Fieldwork in Nepal’’ (Minobu-ronso 24), ‘‘The Vessantara Jataka in the Mani bka' 'bum’’(Journal of International Institute for Nichiren Buddhism 3), ‘‘The Concept of the Buddha-nature in the Mani bka’’bum’’(Journal of Indian and Buddhist Studies 69.2), and published a book entitled The Cult of the Bodhisattva Avalokitesvara in Tibet and Its Nation-Building Myths and Legends, Including a Study of “The Great Chronicle” of the Mani bka’’bum. I gave oral presentations at The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies, The International Association for Tibetan Studies, Japanese Association for Religious Studies.

研究分野：チベット仏教

キーワード：マニ・カンブン　観自在信仰　六字真言　五無間業　自心仏　チェンポ・スム　ヴェッサンタラジャータカ　カーランダヴューハスートラ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の目的は、チベットにおける土着の仏教経典に着目し、仏教文化の受容と変容について研究することである。その具体的調査対象として、チベットの土着文献である『マニ・カンブン』を取り上げ、その思想的背景を検討した。『マニ・カンブン』は、観音菩薩への帰依信仰と六字真言「オーン・マ・ニ・ペ・メ・フーン」の効用を説くチベットの埋蔵経典である。古代チベット王ソンツェンガンポ（650 没）を作者とするが、実際の作者は後世（１２世紀）に埋蔵経を発見した三人の埋蔵経発見者と見なされている。本研究では、観音菩薩信仰を背景として描かれたチベットの建国神話伝説を中心に読解した。本研究を通して、インドを起源とする外来宗教である仏教が、チベットで土着化する過程において必要とされた思想的基盤を明らかにすることを試みた。

２．研究の目的

（１）『マニ・カンブン』に描かれた建国神話伝説の読解を通して、仏教がチベットに伝来した当時の原形態について考察し、神話や古代チベット王の伝記・英雄譚の中に記述された、前伝期の仏教伝来の様相がどのような意図を持って描かれているかを解明する。

（２）『マニ・カンブン』に引用されたインド仏教の経典の解明を行う。このことによって、インド伝来の仏教がチベットで受容される過程を解明する。とりわけ、仏教が土着化する過程で、一般民衆への布教の礎石となった思想を解明する。

（１）各宗派から出版された木版印刷版の比較研究に基づく原典研究と和訳研究を行う。これを基礎資料として、６版を比較したテキストを作成し、木版印刷の伝播の系譜を解明する。

３．研究の方法

研究方法は文献学とフィールドワークの二つの方法を取った。文献学においては、現在伝わる『マニ・カンブン』の木版印刷版のうち北京版を除く 6 版（ジェプン版、デルゲ版、ウランバータル版、ムスタン版、グンタン版）における「偉大なる歴史章」の比較研究を行った。さらに、引用経典の研究においては、チベット語、梵語、漢訳文献（大正大蔵経）の
フィールドワークにおいては文献収集と口伝の収集に努めた。

４．研究成果

本研究者の本研究実績を成果発表の形でまとめると、論文８本、口頭発表（国内５本、海外１本）６本、書籍１点、学会賞１つにまとめられる。８点の論文は以下である：「『マニ・カンブン』の木版印刷版について」（『佛教学』59: 53-80, 2018）、「チベット埋蔵経典『マニ・カンブン』における初期仏教についての記述－チベットにおける『ヴェッサンタラジャータカタカ』の伝播と受容」（『パーリ学仏教文化学』32: 67-90,2018）、「ネパールにおけるフィールドワーク：ネパール大地震から 3 年」（『身延論叢』24:89-108,2019）、「『マニ・カンブン』における「ヴェッサンタラジャータカ」－チベット王ソンツェンガンポとダライ・ラマ五世の布施行」（『日蓮学』3:17-50,2019）,『チベット仏教文献読解における口伝の役割ーコントウルの「了義大中観に対する２３の誤謬」の読解を中心として』（『印度學佛教學研究』68(2)897-905, 2020）, 『チベットの建国神話伝説に観られるインド佛教の継承』（『宗教研究』93(別冊)318-319, 2020）、『マニ・カンブン』における観自在菩薩の二十一経典の引用研究（『宗教研究』（別冊）94:160-161, 2021）,『マニ・カンブン』における如来蔵思想（印度學佛教學研究 69(2) 810-106, 2021）である。口頭発表はこれらの論文発表に先立ち、印度学佛教学会、日本宗教学会、及び、国際チベット学会

で口頭発表を行った。書籍は『チベット建国説話と観自在信仰ー『マニ・カンブン』「偉大なる歴史章」を中心にー』（起心書房、2021）を刊行した。パーリ学仏教文化学会より学術賞を授与された。

現在伝わる『マニ・カンブン』の木版印刷版のうち北京版を除く6版における「偉大なる歴史章」を比較研究を通して、6版は「偉大なる歴史章」第三十五章の 引用経典の違いから、プナカ版とそれ以外の2つに大別でき、さらにその2つはジェプン版、デルゲ版、ウランバータル版のグループと、ムスタン版、グンタン版のグループであると判明した。『マニ・カンブン』は密教の浄土経典である。その特徴として観自在菩薩の功徳と六字真言の効用を説くこと、六字真言の教え がチベット密教のチェンポ・スム(マハームドラー、ゾクチェン、大中観)の教えと緊密に関連して説かれること、如来蔵系経典であること、自心仏と即身成仏 を説くこと、布教の対象者に五無間(五逆)の罪を犯した者を含むこと、密教が、救済の特徴を拡大したことを確認した。『マニ・カンブン』に引用された観自 在菩薩の二十一経典には除災と、五無間(五逆)を含む罪の滅が説かれている。中でも、『カーランダヴューハスートラ』が観自在菩薩の六字真言による五無間 の滅と、極楽浄土への往生を同時に説く経典として、『マニ・カンブン』においては根本聖典のような役割を果たしていることを指摘した。本書の研究成果の一 つが、『マニ・カンブン』に現れる「自心仏」という用語とその意味についての考究である。『マニ・カンブン』では、この「自心仏」という用語は、ゾクチェ ン、マハームドラー、大中観という密教の教義と連携して説かれ、即身成仏として理解できる教えである。「自心仏」という用語は日本密教における真言宗や天台教学で議論されていることから、この教えの源流を探ることにより、チベット密教と日本密教における接点が見出され、この源流に遡ることによって、前伝期 チベット仏教の思想を再構築できるのではないか、この再構築を通して、後伝期チベット仏教がどのように変化し、展開したかを明確にすることができるのでは ないかと考える。

特に『マニ・カンブン』に説かれるチェンポスム（ゾクチェン、マハームドラー、大中観）、如来蔵思想と自心仏という用語から心と仏性の関係からチベット仏教思想史を読み解く鍵を得た。心の教えを引き継いだのが、チベットでは、ゾクチェンとマハームドラーを実践する、ニンマ・カギュ派の密教であり、また、大中観他空派であったと言えよう。そして、前伝期チベット仏教と後伝期チベット仏教を前伝期チベット仏教においては、後伝期主流派とは逆に、『マニ・カンブン』がソンツェンガンポ王の教えとして記すように、心の教えが主流であり、前伝期と後伝期を連携する鍵となる用語が『マニ・カンブン』に説かれ、かつ日本密教とも共有する、「自心仏」であり、即身成仏思想であり、さらに、観自在菩薩への帰依、あるいは彼を信ずる心に重きを置く思想であったと言えるのではないか。インドから東アジアに伝播した仏教思想をつなぐ鍵となるのではないか。本研究成果の成果の一つは、このような問いが研究を通して、新たに生まれ、チベット密教における心と仏性の関係についての思想の解明につながるてがかりを提出したことである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 槇殿伴子	４．巻 68.2
２．論文標題 チベット仏教文献読解における口伝の役割ーコントウルの「了義大中観に対する23の誤謬」の読解を例として	５．発行年 2020年
３．雑誌名 印度學佛教學研究	６．最初と最後の頁 897-905
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 槇殿伴子	４．巻 93(別冊)
２．論文標題 チベットの建国神話伝説に観られる インド仏教の継承.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 宗教研究（別冊）	６．最初と最後の頁 318 - 319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 槇殿伴子	４．巻 3
２．論文標題 『マニ・カンブン』における「ヴェッサンタラジャータカ」－チベット王ソンツェンガンポとダライ・ラマ五世の布施行	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日蓮学	６．最初と最後の頁 17-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 槇殿伴子	４．巻 59
２．論文標題 『マニ・カンブン』の諸版について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 佛教学	６．最初と最後の頁 53,80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 槇殿伴子	4．巻 32
2．論文標題 チベット埋蔵経典 『マニ・カンブン』 における初期仏教についての記述 ―チベットにおける「ヴェッサンタラジャータカ」の伝播と変容	5．発行年 2018年
3．雑誌名 パーリ学仏教文化学	6．最初と最後の頁 67,90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 槇殿伴子	4．巻 19
2．論文標題 外国語教育における第一言語の効果的使用：トロント大学TEFL資格講座による外国人児童への英語教授法から学ぶこと	5．発行年 2018年
3．雑誌名 身延山大学紀要	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Makidono, Tomoko	4．巻 19
2．論文標題 ‘The Ornament of the Buddha-Nature’: Dge rtse Mahapandita's Exposition of the Great Madhyamaka of Other-Emptiness	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Indian International Journal of Buddhist Sutides	6．最初と最後の頁 48, 77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 槇殿伴子	4．巻 24
2．論文標題 ネパールにおけるフィールドワーク：ネパール大地震から３年	5．発行年 2019年
3．雑誌名 身延論叢	6．最初と最後の頁 89, 108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tomoko Makidono	4．巻 11
2．論文標題 Kah thog Dge rtse Mahapandita's Commentary on Lcang skya Rol pa'i rdo rje's Lta ba'i gsung mgur zab mo : The Text and a Translation of Rdzogs pa chen po la dogs pa sel ba'i legs bshad gser gyi thur ma	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Acta Tibetica et Buddhica	6．最初と最後の頁 165, 246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 槇殿伴子
2．発表標題 チベットの建国神話伝説に観られるインド仏教の継承
3．学会等名 日本宗教学会第７８回学術大会 於帝京科学大学千住キャンパス
4．発表年 2019年

1．発表者名 槇殿伴子
2．発表標題 チベット仏教文献読解における口伝の役割：コントウルの「了義大中観に対する２３の誤謬」の読解を例として
3．学会等名 日本印度学佛教学会第７０回学術大会 於佛教大学紫野キャンパス 2019年9月8日
4．発表年 2019年

1．発表者名 Tomoko Makidono
2．発表標題 ”The Vessantarajtaka in Tibet: Its Transformation into Mahayana Scripture.”
3．学会等名 第１５回国際チベット会議 於国立東洋言語文明研究所(INALCO)、パリ 2019年7月8日（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 槇殿伴子
２．発表標題 『マニ・カンブン』における如来蔵思想
３．学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会（創価大学　オンラインリモート会議システムによる開催）
４．発表年 2020年

１．発表者名 槇殿伴子
２．発表標題 『マニ・カンブン』における観自在菩薩の２１経典
３．学会等名 日本宗教学会第７９回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 槇殿伴子
２．発表標題 チベット埋蔵経典 『マニ・カンブン』 における初期仏教についての記述 ―チベットにおける「ヴェッサンタラジャータカ」の伝播と変容
３．学会等名 パーリ学仏教文化学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関